

## 【 第 5 回富良野市障がい者計画策定市民委員会 議事録 】

### ○福祉課長の進行で開会

### ○委員会開催 委員長が議長となり議事進行

### ○委員長あいさつ

### ○議事

- (1) 第 5 期富良野市障がい者計画（案）第 3 章までの修正部分及び第 4 章から第 5 章  
～ 事務局より資料について説明

### 以下、委員からの提案、意見等

- ・第 4 章施策の展開の主な取り組みで、例えば第 1 節（1）の中で①と②、⑩、⑪のように同じような内容が重複している。まとめて簡潔に記載する事はできないのか。
- ・障がいのある方がこれを見た時に何課ではどんな事に取り組んでいて何を相談したら良いのかという図表みたいのがあれば、見る方にとっては分かりやすいのではないのか。
- ・障がいのある方のための分かりやすい防災マップが必要ではないのか。
- ・第 1 節の部分から、まず、市の行政職員が障がいや病気の理解をしていかないと何も変わっていかないのではと思っている。市の職員は一定の期間で異動がある事から、市役所全体で学ぶ必要は非常に高いと感じていて、全体的な理解を深める学習等を行ってほしい。
- ・第 2 節①福祉就労の充実について、就労の場を提供しているのは、民間の事業所であり、市が提供するのという書き方は違うのではないのか。就労継続支援の中で抱えている課題は多くあり、富良野市の基幹産業を利用した独自の農福連携の取り組みのような何かを市が率先して行わないと就労の問題は解決していかないのではないのか。
- ・前回の計画の中で「公共機関等での雇用の促進」があるが、実際は何もしていないのではないのか。富良野市では、ワイン工場やぶどう畑を持っているのだから、就労支援事業所の仕事の間として雇用につなげてみてはどうか。同じく前回の計画で「職場体験実習の拡大」があり、これは今回の計画にも入っているが、これについても具体的な取り組みをお願いしたい。
- ・今の「行政の方に専門的な知識を」という部分では、実は学校でも特別支援教育に関わる教員が全て専門の免許を持って、支援の必要な子どもに関わっているかという点と実際はそうではない状況があり、学校においても専門性の部分の追及の必要性はあると考えている。
- ・この計画が誰のための計画なのかと原点に立ち返った時にサービスを受ける方とサービスを提供する側双方のものである事が前提で、それがバランス良く計画の中に反映されている事が大事だと思う。例えば先日の障がい者施設の虐待の問題では、その後、当

該の指導員ははまだ勤務を続けている、その施設の現場の大変さは想像しがたいものがあるだろう。では、根本的な解決は何があるのだろうと考えると単純に職員の数が3倍になれば、虐待等の問題は解決されるのかなと報道を見て思った。実際、学校現場でも1人の特別支援学級の教員が1クラス7名の障がいや学年、困り感の違う子どもを担当している状況から、せめてもう1人の教員を増やす事ができたら、現場の環境は変わるだろうといつも思っている。同様に民間の事業所の方も例えば働く方の給与がもっと多ければまた違った展開が生まれるのではないかと思うと政治の責任は大きいといつも考えざるをえない。もっと事業所で働く方の生の声や実際にサービスを受けている方、学校の現場の声を丁寧に拾っていただいて、それを政治にどう反映していくかが大事だと思う。富良野市だけの問題ではなく、国の問題として話しているが、そんな動きが小さな地方の自治体であっても作る事ができれば、この計画も生きてくるのではないか、未来につながる計画であればと考えている。

- ・障がい者が見やすいように事業が分かりやすい具体的なサービスの一覧を載せては。また、地域資源マップの中で載せてみてはどうか。

- ・富良野市が障がい者に対する施策として、パッと分かりやすい何か見える形がないのかなとお金をかけなくてもできるような事を考えてほしい。社会福祉大会等でもアイデアを募って誰もが障がいについて見えるような仕掛けを作って頂けたらと思う。

(2) 市民パブリックコメントの実施について、(3) 答申について、(4) 今後のスケジュールについて ～ 事務局より説明

- ・この後、修正した計画（案）を各委員に送付し最終確認を行う。
- ・次回開催は、パブリックコメントの意見集約後、2月中旬を予定。

**閉会**